

＜株式会社エフエム東京 第380回放送番組審議会＞

1. 開催年月日:平成 23 年7月5日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内 0 名)

◇出席委員(6名)

青 池 慎 一 委員長	横 森 美 奈 子 副委員長
内 館 牧 子 委員	香 山 リカ 委員
秋 元 康 委員	西 田 善 太 委員

◇欠席委員(1名)

渡 辺 貞 夫 委員

◇社側出席者(11名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役
石 井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
小 林 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森 田 編成制作局局次長 兼 編成部長
甘 利 番組制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題:

番組試聴「Blue Ocean」(ダイジェスト版) 約 20 分
6月13日(月)～16日(木) 8:30～11:00 放送

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎6月25日(土) 三井住友銀行 presents 桑田佳祐のやさしい夜遊び

～ 33回目のデビュー記念に、勝手にひとりで生歌スペシャル ～

KING OF J-POP 桑田佳祐さんが、病気からの復帰後初めてとなる2時間に及ぶ本格LIVEを、TOKYO FM ホールで実施いたしました。

この企画は、TOKYO FM レギュラー番組「桑田佳祐のやさしい夜遊び」(毎週土曜日23:00～23:55)の番組公開録音イベントとして“サザンオールスターズのデビュー記念日”となる6月25日(土)に開催され、ステージの模様を当日の23時から2時間の特別番組『三井住友銀行 presents 桑田佳祐のやさしい夜遊び～ 33回目のデビュー記念に、勝手にひとりで生歌スペシャル ～』として放送しました。

桑田佳祐さんが療養後に事実上初めてファンの前で生歌を披露する注目度の高いイベントとあって、リスナー招待枠だけで1万5000件を超える応募が殺到しました。公開録音では、桑田佳祐さんが2時間にわたり、往年のサザン楽曲やソロ作品を生演奏し、サブライズ・ゲストでサザンのメンバー・原由子さん、松田弘さんもステージに登場。大ヒット曲「真夏の果実」、「希望の轍」など全22曲、会場の450人を歓喜に包む貴重なライブパフォーマンスを披露しました。

◎「ヒューマン・ケア～心の絆～プロジェクト」

東日本大震災で被災された方の支援活動としてスタートした「ヒューマン・ケア・プロジェクト」。拠点番組を「Love&Hope(月～木17:30～40)」とし、医師、メディカルトレーナーを帯同して岩手・宮城・福島・茨城などに出向き、天気・気候変化に応じた身体や心のケアや、マッサージ、紙芝居や若手芸人、歌手によるエンタテインメントを通して被災された方々との交流を図ってきましたが、この夏はこの趣旨に賛同した製薬会社グラクソ・スミスクライン社とのパートナーシップで、「ヒューマン・ケア～心の絆～プロジェクト」をスタートいたします。実施期間は7月から9月。週末ごとにキャラバンを組み、各被災地で予防医療を目的としたメンタルケアセミナーやカウンセリング、子ども向け読み聞かせイベントを実施します。

第1回は、7月23日、24日に宮城県南三陸町を訪問いたします。オリンピック体操金メダリストの塚原光男さんの協力を得て、金メダルを手に当時のエピソードを披露したり、ラジオ体操や弾き語り(バンド名は「ムーンサルト」!)を実施いたします。対象は高齢者と子供が中心のため、モノマネ、手品など、家族向きのコンテンツを多く準備していますが、加えて再来日するクレモンティーヌがアニメソングを再度披露したり等、TOKYO FM ならではのコンテンツも計画しております。

◎「iTunes festival 2011」独占放送について

TOKYO FM では、7月度の音楽キャンペーンとしまして、「iTunes」と完全コラボレートし、7月1日から31日までロンドンで開催される、総勢60組を超える世界的豪華アーティストたちが31夜連続で繰り広げるライブイベント「iTunes Festival」の音源を、どこよりも早く独占放送致します。今年5年目を迎えるこのビッグイベントには、過去にポール・マッカートニーや、オアシス、アンダーワールド、オジー・オズボーンらも出演。今年にはポール・サイモンやコールドプレイ、デュラン・デュラン等の出演が決定しています。TOKYO FM では、日本の夏フェスにもやってくる、このヘッドライナーたちの貴重な音源の数々を、以下の3番組に渡ってオンエア致します。

- ①「LOVE CONNECTION」 毎週月～金曜 11:30～13:00(東京ローカル)
- ②「COSMO POPS BEST10」 毎週土曜 15:00～15:30(JFN38局ネット)
- ③「BIG SPECIAL」 毎週月～木曜 25:00～28:00(JFN34局ネット)

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 桑田さんは、もう元気になられたのか？
- 非常に元気になられている。今回はまるまる2時間「生」でやって頂き、復帰後初めての本格的なライブとなった。
- 桑田さんのファンの年齢層はどうだったのか？
- サザンオールスターズの場合は10代～50代と本当に幅広く、親子で楽しんでいく。デビューから33年。往年のファンだけでなく、新しいファンも獲得している。
- ヒューマンケアプロジェクトは以前にも説明を受けたものか？
- 先々月にご説明しているものと同じ企画で、この7月からグラクソスミスクライン社の提供が決定し、このように具体的な活動も新たに始まる。
- TFMホールはどのぐらい稼働しているのか？
- この夏は節電対策のため7月から9月は平日休業し土日のみの営業。通常時は週に3～4回稼働している。
- 自前のホールを持っていることは、とてもうらやましい、財産である。ライブ、芝居、シンポジウムなど、毎日このホールから生放送をやるぐらいのことをしたらどうか？これからの時代、自前コンテンツを持っていかなきゃいけない。だからこそ、ひとつの「遊び場」みたいなカタチでもっと活用していかないと、もったいない。

議題2:番組試聴

【番組名】「Blue Ocean」(ダイジェスト版) 約20分

【放送日時】6月13日(月)～16日(木) 8:30～11:00 放送

【番組概要】

東日本大震災から3ヶ月。リスナーの生活では、今まで最善とされていたものへの懐疑、価値感の崩れが少なからず起きてきています。日本人としての誇りやアイデンティティを揺るがせるニュースが連日世間を覆い、不安や混乱とともに迎えた夏。

電気を大量使用することによる快適生活に慣れ、一見進化しているように見えた上に構築されてきたコミュニケーションが崩壊、一人ひとりの人間力が問われているなか、番組では、「ニッポン再発見」と題して、日本の状況を見捉え、日本人の知恵や力を見つけないおすことで、リスナーとともに少しでも希望を見つけることができるような企画を実施しました。

世界を知り、現役として第一線で活躍する外国の文化人をコメンテーターに迎え、いま日本が置かれている状況を基に、見失ってしまっている日本の知恵や力を再発見する特集。日本の社会の決断の遅さや不透明さを指摘、内へ内へと陥っている現状はメディアが起因しているという指摘には考えさせられましたが、その一方、世界に誇る日本人の知恵や文化レベル、繊細さに関しては、改めて多くの発見があり、リスナーにとって希望が沸いた1週間を共有できたのではないかと考えています。

時に熱く厳しく、野心を持って欲しいとの叱咤激励。誰もが知っている日本の、誰もが忘れかけている一面を毎朝提示していきました。

4日間のラインナップは以下の通りです。今日はフローラン・ダバディさんとレスリー・キーさんをダイジェストでお聞きいただきます。

<コメンテーター略歴>

・フローラン・ダバディ(キャスター・ジャーナリスト)

雑誌「プレミア日本版」編集者として来日後、サッカー・トルシエジャパン通訳として活躍。

日本へ留学経験もありという生粋の日本通。「出来ることなら日本人」になりたいという彼から見える日本とは。

・ドラ・トーザン(国際ジャーナリスト)

東京・神楽坂に住むパリジェンヌ。

暮らしやおしゃれといった身近なテーマから女性問題や街作り、ワークライフバランスといった幅広いテーマで執筆や講演活動。神楽坂から見える日本の街、社会とは。

・レスリー・キー(フォトグラファー)

シンガポール出身。ファッション・広告・CDジャケットなどの撮影を中心に東京、・ニューヨーク・ロ

ンドン、パリ、アジア圏で活躍。昨年東京で活躍する1000人のヌードを撮影した「Super Tokyo」が話題。世界を撮り続ける写真家が切り取る2011年日本の夏は。

・エリカ・アンギヤル(ミスユニバース・ジャパン公式スタッフ栄養コンサルタント)

ミスユニバースジャパン公式スタッフ、栄養コンサルタントとして、知花くらら、森理世らを輩出。世界にジャパンビューティーを発信。外見だけではなく知性や人間性も問われるミスユニバースにおいて世界に認められる日本人女性の魅力、強さを説く。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○ 評価がとても難しい。

正直、日本好きの外国人の言うことが、あまり進化していない気がした。

番組自体が「日本をほめる」という方向に向かっているので、目新しさが無かった。日本に来て日本語が喋れる外国人が、国際的な人間かという、個人的に何人も会っているが、そうではないと思う。

たとえば、先日ミラノに行ったのだが、イタリアの原発の投票も、水道の問題や、首相の免責の問題など色んなことがセットになった問題なのだが、日本では原発だけが報道されている・・・など、そういったことをゲストの方が言ってくれるとよかった。

○ 私の世代だと、「ここが変だよ、日本人」というバラエティ番組に象徴されるように、外国人の日本に対する賞賛や批判には馴染みがあるが、大学生ぐらいの若い世代にとっては「初耳」という可能性もある。そういう意味では「啓発」になる。外国人の日本への評価を知っている世代と、そうではない「初耳」の世代と、どっちも楽しめるものにするのが、制作者の腕の見せどころではないか。また、今回のゲストは、個人的な活動が注目されているので、「外国人」というより「個人」としての活動をもっとフューチャーしたらよかったのでは。ただ震災後の今の時期だからこそ、聞いて元気になるような日本の評価を紹介することは意味がある。

○ 予定調和だったと思う。「日本再発見」というテーマが、何回再発見しているんだ？というぐらい、おなじみのテーマ。きっとゲストがこう言うだろうな、と想像したとおりのことを言っている。コメントを誘導するのではなく、コンセプトが先にあったほうがいい。たとえば、あえて「鎖国せよ！」という命題を投げかけるとか。20××年。日本は鎖国する！それに対して海外の人はどう思うのか、とか。あるいは、たとえば「物干し台から見た日本」とか。物干し台は、日本の昭和の文化の象徴。高層ビルは自分では昇れないが、物干し台なら自分で昇れるぐらいの

高さ。その目線の高さで見ると、どんなことが見えるか・・・とか。

そういう具体的な切り口が欲しかった。番組として成立させるためには、少しオーバーな仮説や、キャッチーな入口がないと、聞き流されてしまう。

- これを聴いて希望を見つけた人がいるのか？と疑問に思った。ひとつの理由はコメンテーターの選び方。メディアで露出の多い人ばかりなので、言うことが想像がついてしまう。有名人でなくてもいいのではないかと。
パーソナリティの声の甲高さが気になった。前もって用意した質問を順番に聞いているような印象があった。たとえばゲストのコメントで「日本人はエリートを目指さないのが良くない」とあったが、日本は“ナンバー1よりオンリー1”と、エリートを作らない教育をしていた時代があった。そういうところもパーソナリティが切り込んでくれると面白い。また「日本人は YES-NO がはっきりしない」というコメントもあったが、これは良くも悪くも日本人がずっと持ってきた文化なので、このあたりも突っ込んだトークができると良かった。パーソナリティも、ゲスト同様、選び抜いたほうがいい。

- 「BLUE OCEAN」の聴取率自体は他局と比べてどうなのか？
 - ターゲットであるF1、20代女性では首位。ただM1、特に30代男性については徐々に上がってきているがまだまだ課題がある。
- 昔と違って、今は、女性の午前中の過ごし方が多様化していると思う。
私自身は自宅でパソコンに向かって仕事をしている時、必ずラジオをつけている。そういう「ながら」的な聴き方だと、「BLUE OCEAN」は、きちん出来過ぎている。パーソナリティの声もクリアに聞こえすぎる。インタビューも一生懸命。選曲も歌い上げるものが多いので、朝の番組としては、他局に比べて濃い。
ただ、聴取率が高く人気があると聞いて、朝から熱いものをガッツリ受け止めたい人もいるのだと思った。ファッション用語で「十人十色」ではなく「一人十色」と言うように、一人の人が色々なキャラクターを持っているので一概に良し悪しではないが……。個人的には、朝のゆるい気分の時は、お喋りも音楽ももう少し聞き流したい。内容が悪いのではなく、空気感に合わない。
- 今回はF1では首位を獲れたが、この3~4年無かった1位を獲れたということで安定しているわけではない。TFMは、聴いている人の数=リーチは12歳~59歳で、全局中1位だが、継続聴取が弱い。これが大きな課題。

- 試聴番組はダイジェスト版20分だが、元々どのぐらいの長さのものを縮めたのか？
 - 2人のゲストがそれぞれ30分喋ったものを、1人10分づつに編集した。
- それを聞いておかないと不当な評価になってしまうのうかがった。
他の委員が言われたとおり、評価が難しい。試聴したのがダイジェスト版であるし、

もともと日本人とか日本文化論が難しいテーマである。

局としては、日本人を元気づけたい、という思いがあったが、その方向に合わせるように構成を作っていたのが、見えすぎてしまった。

また、「外国人」が語るというより、「ある個人」が語る、というスタンスを強調したほうがよかった。語っているフランス人もフランスの一部でしかなく、そのフランス人が見ている日本も日本のほんの一部でしかない。その個別性が逆に面白いのでは？

「日本人は日本人論が好きだ」と言われている。肯定的なもの、否定的なもの、どちらも極端なものを好む傾向があるが、そうではない新しい日本人論が出てくるといい、と個人的に思っている。

- 1つ補足したい。評価するのが難しいと言ったのは、「BLUE OCEAN」という番組は、毎日ゲストを招いて、明るく、軽く、ちょっと元気になる話を聞く、というコンセプトだったはずなのに、「ニッポン再発見」というタイトルをつけてダイジェストで聞かされると、どうしてもその方向から評価してしまうことになるから、難しい、という意味。

私もラジオに呼ばれて喋ることがあるが、その瞬間にキャスターとどんな話をするか、ぐるぐる頭を回す快感があり、上手くいったときは考えてやったときよりも上手くいく。それがラジオの面白さ。だからこそキャスティングが大事。なんでこの4人なのかという疑問がある。

- 「BLUE OCEAN」という毎日やっている番組の1コーナーをつなげた、というのを聞いて納得できた部分がある。朝の「BLUE OCEAN」でやるなら、「あ、トルシエの通訳やってた人だ！」というのが、ちょうどいいのではないか。

- 今回のキャスティングは、まず「声でわかる人」。通訳を入れると距離ができてしまうので日本語が堪能。そして少し湿り気のあるウェットな方という基準で選んだ。

- 番組概要は、改まって書かれているので、その枠組みの中で見てしまう。評価が「ニッポン再発見」というコンセプトに引きずられてしまった。今後は、番組内容の説明無しで、「とにかく聞いてください！」というところから始まる、番組視聴もあり得るのではないか、検討して欲しい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放 送:番組「**JOGLIS SUNDAY**」
7月 31 日(日) 5:00～7:30 放送
- ② 書 面:**TOKYO FM** サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:**TOKYO FM** ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会9月6日(火)に開催することを決めた。